



なんざん

カトリック南山教会
名古屋市昭和区南山町1 TEL(831)9131~2
URL <http://www.nanzankyokai.net/> FAX(836)2253



献堂50周年

聖別されたもの

南山教会献堂50周年記念によせて

主任司祭 ボクダン・ノヴァク

鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。

ヨハ2、16―17

エルサレムの神殿は、イスラエル人にとって神のご臨在のしるしであって、イエスは、ご自分の父の家と呼ばれました。神殿が建てられたのは、人々が神に近づくのを助けるためであり、神のご臨在は、イスラエルの国民の日常生活を満たし、それを聖化させるためでした。残念ながら、祭司をはじめ、多くの人は、神殿を自分の利益のために利用するという誘惑に落ちいました。この罪によって神殿は、父である神の家ではなく、強盗の巣になって、元々の役割を果たさなくなっただけでなく、人々を神から引き離すものになりました。

(次項へ続く)

平日のミサ時刻

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
第2水曜日 午後2時30分 (子ども部屋ミサ) マリア館ホール
火曜日 午後7時
金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時
聖体礼拝
土曜日 午後5時30分

主日のミサ時刻

土曜日 午後2時30分
日曜日 午前8時・9時30分・午後6時
日曜日 午前9時30分 (English) マリア館ホール
第4日曜日 午後2時 ベトナム語ミサ

(前項から続き)

キリスト者として私たちは、教会を建て、それを神に奉獻します。獻堂するによって、この建物は神のご臨在の特別な場所となり、信仰によって結ばれた人々が共同体として父である神を賛美し、神と交わることによって、聖化される場所になります。ここで頂いたお恵みを他の人々と分かち合うように、わたし達はここから遣わされています。

イスラエルの民と同じように、私たちは、聖別された建物を違う目的のために利用するように常に誘惑されています。獻堂記念を祝うことは、私たちと共におられ、私たちの間にすばらしい業を成し遂げる神に感謝すると同時に、獻堂の意義を新たに思い起こし、場合によっては反省する機会にもなっています。要するに、私たちの教会は、本当に獻堂の意向に従って使われているかどうか、何らかの清めが必要になっているかどうかということなのです。

教会という建物は、キリストの共

共同体、またはこの共同体のメンバーである、一人一人のキリスト者の象徴になっています。キリスト教の共同体は、キリストの神秘的な体であり、神の生ける神殿であります。私たちは、共同体として、神のご臨在を現し、救いの業の見えるしるしになるように召されています。洗礼を受けた時に、神が御自ら、私たちにご自分自身をお与えになり、私たちの内に住まわれましたので、私たち一人一人は聖霊の神殿になったわけです。そのとき、私たちは暮らしているところにおいて、神のご臨在のしるしとなり、神聖な命を他の人に伝える使命を与えられました。

共同体としても、個人としても、与えられた使命を果たすためにわたし達はまず、教会という建物と同じように、聖別されているということ意識する必要があります。聖別された教会は他の建物と違う目的のために存在しているように、わたし達は一般社会が定めている目標を何の

識別もなく目指し、他の人と全く同じ価値観に基づいて生きるのではなく、神ご自身が定めてくださった目標を目指し、イエスがわたし達に示した神の国の価値観に基づいて生きる必要があります。

わたし達は、聖別され、神にすべてを与えたいという望みがあっても、必ずしも完全に神のものになっていくと限りません。なぜなら、ほとんどの場合、わたし達には色々な執着があったり、神以外のものと不健全な絆で結ばれていることがあるからです。自分の内におられる神の栄光を表すために、わたし達は自分自身を部分的にはなく、全体的に神に与える必要があります。自分自身に神に与えれば与えるほど、わたし達の内におられる神の栄光は、益々力強く輝くようになります。人間は、本当に自分のものになっている部分だけ、つまり、本当に自由になっているところだけを神に捧げることができますので、自分の最も深い望み

に従って全てを神に与えるためには、わたし達は絶えず、不健全な絆を破り、色々な束縛から解放されるようにする必要があります。

さて、わたし達は獻堂の意向と洗礼の約束を忠実に生き、共同体の生活に積極的に参加することによって、イエスとの絆を強め、益々自由になりますように、そして共同体としても、個人としても、与えられた使命を果たすことによって、神のご臨在が地域社会から始まり、日本中、または世界中に広まりますように祈りましょう。



第二回運営委員会議事録

日時 2008年5月11日

11時20分～12時50分

場所 司祭館 1階集会室

司祭団より

- ・結婚式費用の改定について
- ・結婚式費用について適正な額に値下げを行う。同様に結婚講座も無料で行う。

〈報告事項〉

- 一、運営委員会名簿について
 - ・運営委員会の名簿を作成。会議の事前連絡などに利用し、密な連絡を取れるようにする。
- 二、わだち祭りへの協力について
 - ・5月25日に恵方町教会にてわだち祭りが開催される。金券を9時半のミサ後に販売しているのをご協力をお願いします。尚、当日マリア会に稲荷寿司を作って持って行っていただく。

三、共同納骨堂管理委員会について

- ・5名の委員を選任し、委員会を発足させた。6月8日に第一回委員会を開催する予定。

四、特別献金について

- ・インターナショナルミサへの特別献金は25000円。6月15日、ソロモン諸島地震、津波の復興支援の特別献金を実施する。また、ミャンマー地震に対しても送金窓口を確認し実施する。

五、信徒協、宣司評総会報告

- ・4月27日に信徒協総会が開催され、各活動についての報告が行われた。信徒協からの呼びかけに対して返事が少ないと感じている。

- ・4月29日に宣司評総会が行われた。近日中に夏の広島巡礼についての案内が送付される。

〈審議事項〉

一、2007年度決算

- ・財務委員長より2007年度決算報告が行われた。5月号の月報でも報告

算報告が行われた。5月号の月報でも報告

- ・水道光熱費については、信者一人一人の心がけで、削減が可能ではないか。

二、信者全体集会のについて

- ・6月29日より11時よりマリア館二階ホールにて信者全体集会を開催する。今後の教会運営についての説明をする。また、事前に一般信徒からの意見、要望、質問を頂く。ご意見、ご要望、ご質問があれば400字以内にとまとめ事務所に提出するか、FAX、又はE-mail (inu@nanzankyoukai.net) で送信してください。締切は5月30日とし、信者全体集会にて取り上げるかどうかは運営委員長、副委員長、マリア会会長が協議した上で主任司祭に最終判断して頂く。

三、マリア館周辺修繕について

- ・マリア館西側の土手と短大との間の修繕を検討中。現在2社に

見積もりを依頼中。見積もりが届いてから修繕を行うか検討する。

- また、マリア館東側（聖堂北の駐車スペース後ろ）に花壇を設置する予定

四、バザー実行委員会立ち上げについて

- ・委員長は新内氏。次回会議にて委員を選出する。尚、今年のバザーは10月26日に行われる。

五、その他審議事項

- ・ランプを省エネ化。人感センサーに交換。
- ・施設の利用が著しく悪いことが少なからずあるので、利用に際しての許可証を発行し利用規約を明確にしたほうがいいのではないかと。

〈各会報告〉

○典礼委員会

- ・5月11日 聖霊降臨にあたり天使ミサ

・5月18日 マリア祭、典礼委員会定例会議

・6月22日 典礼奉仕者の会総会、典礼委員会定例会議

又、今年度は侍者服の整備・購入を計画している。

○ヨセフ会

・6月15日に設立総会開催予定。

これをもってヨセフ会の立ち上げとする。構成は南山教会成人男性信徒全員とする。

○レジオ・マリエ

・4月29日 名古屋クリア遠足南山教会からは7名が参加した。

○中高生会

4月13日 始業式

4月27日 竹の子堀り

5月25日に開催予定だった遠足は6月22日に変更。

○英語ミサ

・5月11日のミサをマリア館ホールで行ったが、祭壇の扉を開ける事が出来なかった。次の人が使いやすいように利用してほしい。

・聖霊降臨を終えて、ミサに使用する本を新しいのに取り替えた。

○ボーイスカウト

・6月1日にスカウトバザーを開催する。

・6月中に親子潮干狩りを行う予定。参加予定約20名。



共同体の祈り



典礼委員長 新内 飛鳥

南山教会に所属の信徒の皆様、日ごろは典礼委員会の活動にご理解と

ご協力、そして尊い奉仕を賜りありがとうございます。

さて、南山教会では私たち所属信徒の信仰生活を豊かに育むため、また主イエスの現存を世に示すため祭団と信徒によって毎日ミサが捧げられております。とりわけ主の日と呼ぶ日曜日には、午前8時、午前9時半、午後6時と3回のミサが捧げられます。ことに9時半のミサには信徒の参列が多く、教会にとって重要な運営会議などはこのミサの後に開催されます。ご存知のように、このミサの前に「教会の祈り」「ロザリオの祈り」「十字架の道行きの祈り」をお捧げしています。私たちは相応しい心の状態でミサに参与するため、この祈りに参加することが望ましいと考えます。特別に熱心な人向けに用意したものではなく、ミサに参列する全ての信徒のために準備されています。どうぞ、兄弟姉妹の皆様、私たち共同体の信仰をみ旨にかなう捧げ物として神がお受けくださるようにならぬことを準備致します。

金 祝・しばくかい

加藤 迪春

《四木会》は、四月例会で五十回を数えました。

金祝と自称することは甚だ厚顔でありますがかご容赦ください。

二〇〇四年三月以来例会の他に、

○多治見の神言会墓地参詣。

○和訳聖書発祥の地探勝。

○安城教会・ブルム神父様訪問。

○円空仏研究センターへ勉強に。

○北島神父様のアルゼンチン物語。

○病者快復のためのミサ。

○川上神父様歡送会。

○運営委員会への帰属について審議。

○金祝記念会食。

(参加二十一名、於・浜木綿)

と九回の臨時例会を催してきました。

○毎回の参加者は八名〜二十一名で、

平均出席は、十二名。

○年齢幅は、九十二歳〜六十四歳で、

平均年齢は、七十七歳です。

例会次第の第一部は、ロザリオの

祈り第四の神秘に始まり世界された方へのご冥福、病氣ご療養中の方々のご快復の祈りで、少憩後の第二部は、神父様のコメントから鎌田ドクター（九十二歳）の長寿秘訣、そして、世相論談と進み、この間に銘水でコーヒーを煎れて嗜み、代金は貯めておいて災害やボランティア活動への援助献金に活かしております。

前述の「運営委員会への帰属について」審議した内容は予てから「四木会からも運営委員を選出するように」という要請がありました。四木会としては発足時に「教会の運営に横から口出しをしない事」を理念として来ましたが、近々設立が進められているヨセフ会の年長組に四木会のメンバーが個人として参加することはあっても四木会が組織として運営委員会へ参画することは控える事を再確認したもので老害を厳として慎むという自戒の一端でもありました。

南山教会への日曜勤務には定年がありませんので生涯学習、臨終定年をモットーにしており、今後の勉強

課目の予定は、

○ドミンゴ神父様をお迎えして「聖書の言葉と歎異抄をベースとした仏教語との共通点と類似点」。

○ディース社による「究極の霊的同伴者」。

○「世の終りは何時くるか」。

などです。

入会届けも出欠席の事前連絡も不要で、毎月第四木曜日十時から十一時半まで教会事務所の隣室で開催しております。

四木会しばかの由来は、何かと物忘れの多い年齢層のため毎月第四木曜日を例会日と決め、語呂が司牧に通じ、「ん」の一次を弾めば《親睦会》へと変身出来る着想からでした。

当番の世話人は、加藤迪春、

高橋明、樋口富士夫、

吉田忠義、の四人です。

シルバーの方々、どうぞ、最寄りの世話人に気安くお話し下って生涯学習、臨終定年の「しばくかい」へお出かけください。

会員一同お待ちしております。



ボーイスカウト 山岳訓練（4/26・27）



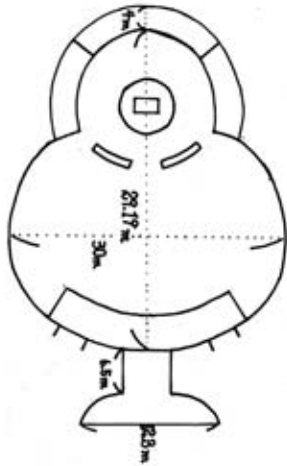
※記事は、先月号を参照して下さい。

献堂50周年をお祝いして

運営委員長 松浦典文

5月4日に献堂50周年をお祝いすることができたのは、当教会にとつて大きな喜びです。

写真展を見ながら思ったのは、これまでの様々な場面を支えてくださった方々のご苦労です。神の計画のために知恵をしばり、自分の時間をけずり、汗を流してきた皆様の姿は献身的な努力というものを絵に描いたかのようにです。



大聖堂を上空から見るとカリスとホスチア

つまり、わたしは1954年の8月から1年間くらい、今南山短大のものとなっているピオ館と名付けられた神言会会員の家に住んでいたのです。わたしの部屋の窓から南山町に似合う一つの小さな「丘」が見えて、その丘の上に建築用の大型の

多くの方々のお力のおかげで、今後も南山教会は発展していくと思います。その原点には、今月号のために原稿を寄せてくださった方々の思いと行いがあると思います。

お言葉をかみしめながら、今後の教会活動について、しっかり考えていきたいと思っています。

私と南山教会の聖堂

第四代主任司祭 J・ウマンズ

南山教会の聖堂との最初の「出会い」は建築が始まる数ヶ月前でした。

重い機械がしばらくの間何台も置いてあったのです。その目的は南山学園の中心と考えられたチャペルの重さに耐えるために地盤を固めることでした。しかし、建築が始まったとき、わたしは既に名古屋を離れて東京に帰っていたのです。

ところが、不思議な話ですが、学園はほぼ同時に大学の山里町への移転計画を進めていたようです。したがって、あの南山町の「丘」は学園の中心地の意味を失い、そこに建てた聖堂は数年あとで神言会担当の名古屋司教区の小教区教会に変わりました。

次に、建物そのものを考えますと、まず無駄のスペースが大きかったと思います。特に建てたときの形を思い出しますと、設計者と注文者であった南山学園は何を考えていたでしょう。あとで聞いた話ですが、平面図が達磨だまらの形で、腹部は列席者の場所であり、頭部は祭壇の場所と考えられたということです。

献堂式のとき、聖堂の中側の壁はコンクリートそのままであったため音が非常にこだましたので、吸収のために今日にいたるまで壁についている柔らかいアコーデオンを付ける修理がただちに始まることとなりました。また最初の主任司祭であったナーベルフェルト師は祭壇からガラス扉を通して聖堂の外が見えることが気に入らなかつたため玄関の近くに一つの屏風を立てることにしました。以上の形で南山教会の聖堂は第二バチカン公会議による典礼刷新を待ち構えていました。

聖堂の建築に大きな影響を及ぼした公会議後の典礼刷新の主な点は、第一に、ミサ典礼が祭壇を囲んで行われること、第二に、ミサ典礼が『言葉の祭儀』と『感謝の祭儀』の二つの同じく大切な部分からなっていること、第三に、一つに結ばれている洗礼―堅信―聖体の『入門の秘蹟』のことであります。これに従って祭壇の場所と向き、聖書朗読に適する

台とその場所、司祭の向かい合う席、聖櫃と洗礼盤の場所などを新たに考へなければなりません。そこで、わたしたちは2、3年の間、木製の模型を用いて以上に指摘したそれぞれの備品の適当な場所を試した上で、聖堂の設計者であったベトレム外国宣教会フロイレル師に内部のリフォームを依頼することになりました。その結果がすばらしくて、

わたしたち皆の祈りを支えているに違いないと確信しているのです。

最後に、一つのお願いを許していただければ、最近、取り除かれた洗礼盤を屏風なしに前の場所に戻すことを提案したいのです。(扉のガラスを磨りガラスに取り替えることも考えられると思います。)



聖十字架聖堂献堂式 前後ごろの思い出

神言修道会司祭 青山 玄

今年の5月3日は、南山教会の聖十字架聖堂が教皇庁公使フルステンベルク大司教によって献堂された50周年に当たるので、その前後ごろの思い出を少しだけ述べてみたい。

筆者は、南山大学が創立された1949年4月に、その1年生となつて入学した神言会神学生だったので、五軒家町の大学構内に建てられたカマポコ聖堂で、南山教会が50年4月にシユタインホフ神父(1906-1987)を初代主任として発足した頃のこと、翌年4月に安田貞治神父(1916-現存)が第二代主任として着任した頃のことも知っているが、当時の信徒数の急激な増大にこたえるには、米軍から払い下げられたカマポコ兵舎の聖堂ではあまりにも小さ過ぎるので、安田神父は54年2月頃に、もっと大きな新聖堂

の建設を神言会に申請した。そして翌年秋には、南山教会の信徒たちの間でも、新聖堂建設資金を多少なりとも援助しようとする募金運動が始まっていた。

57年3月、安田神父は東京の吉祥寺教会主任に転任し、代わつて吉祥寺教会の創立者で主任であったエミール・ナーベルフェルト神父(1897-1979)が着任した。神父は1926年9月に来日し、31年に筆者の出身地である新潟県新発田町に教会を創立した人なので、神父を慕うその新発田教会の古い信徒たちを介して、筆者は神学生時代の時から、吉祥寺教会を訪問してナーベルフェルト神父と親しくしていた。

神父が南山教会に着任して1か月程経った57年4月初旬、南山教会新聖堂の建設が着工された。同年9月にアジア最初の枢機卿である中国人神言会員の田(ティエン)枢機卿が来日したが、この機会に、南山教会新聖堂の定礎式が田枢機卿司式で行

われた。当時神言神学院は南山教会から遠くない滝川町四七番地にあり、修練長兼神学生指導司祭のトナイク神父(1907-1994)が、オルガニストのデイートリヒ神父(1991-1970)と共に神学生聖歌隊を指導して、日曜大祝日ごとに神言神学院聖堂でラテン語の歌ミサを捧げていたので、グレゴリアン聖歌の歌ミサに参加したい一部の信徒たちは、よく神言神学院聖堂でのミサに出席していた。それで58年5月3日(土)の、当時のカトリック教会では「聖十字架発見の記念日」とされていた日に、駐日教皇庁公使フルステンベルク大司教によって南山教会の新聖堂が荘厳に聖別、献堂された時には、トナイク神父の指揮した神言神学院聖歌隊が、綺麗なグレゴリアン聖歌でその盛儀ミサを盛り上げた。しかし、新聖堂は既にこの年の3月始めに落成して当時の松岡孫四郎名古屋教区長によって祝別され、最初のミサが捧げられたので、

信徒数の多い南山教会では、正式の献堂前であってもその時以来この新聖堂でミサ聖祭が捧げられていた。

それで、南山教会からの要請に基づき、この年の聖木曜日には神言神学院聖歌隊員の筆者と他の三人が、新聖堂の内陣向かって左側の席で歌って儀式を飾ったが、これが南山教会でラテン語グレゴリアン聖歌によるミサ聖祭が捧げられた最初であった。

筆者の記憶では、声の大きい人たちが内陣のあの位置で歌うと、その歌声は聖堂内によく響き渡るようであった。後で信徒たちからも、歓ばれていたからである。

カール・フロイラー神父が設計した南山の聖十字架聖堂は、真上から見るなら大きな円の上に、少しずらして小さな円を重ねた形なので、察するに、ミサに使用するパテナの上にホスチアを載せた形をイメージしたものだと思うが、その内装のためには十分の時間がなかったのか、献堂式の時にはガラス窓は全て着色な

しのガラスであったし、内陣奥の壁も壁面や紋様なしのセメント色、平らな天井は単調な四角模様を連ねただけなので、これらは将来どのような内装になるであろうか、など話題にされていた。しかし、ガラス窓は綺麗になっていも、壁や天井などは今もほとんど相変わらずなので、特にあの大きな天井の美化はもう諦められているのかも知れない。

ずーっと後の話になるが、1960年代の末頃に鎌倉の知人カメラマンが、昭和初期に上映された古いモノクロ映画「日本廿六聖人」のフィルムを貰い受けたと聞いたので、その映画を南山教会の聖堂で上映してもらったことがあった。当時は本祭壇の後ろに大きな復活のキリスト像がまだなく、十字架も少し小さかったので、2階の聖歌隊席に映写機を設置して、本祭壇後ろの壁面に大きく上映したら、映画館で観覧しているようであった。それで、今の神言神学院聖堂の本祭壇後ろの壁面にも、

2階の信者席に幻灯機を置いてカラーフィルムの聖母像その他を大きく投射してみたら、これも観覧者に良い印象を与えるので、神言神学院聖堂での幻灯会はその後待降節などに幾度も挙行されるようになった。ついでながら、カトリック者の平山政十氏が親譲りの遺産余万円を投資し、1912年発足の「日活」(大日本活動写真株式会社)に依頼して制作してもらった映画「日本廿六聖人」

には、ホイヴェルス神父やヴェリオ神父をはじめ数人のカトリック者も積極的に協力して、賛美歌の作詩は戸塚文卿神父、作曲は山本直忠氏が担当しており、伝統的カトリック信仰に配慮した池田富保監督の下でなかなか良く出来た映画であった。当時の一流俳優たちが主演しているが、戦後大物俳優になった若い片岡千恵蔵も、ペトロ・パプティスタ神父に仕える大工フランシスコ伝吉として登場していた。昭和6(1931)年9月28日に明治神宮外苑日本

青年会館で初演されたこの映画は、当時の若槻首相や犬養毅氏らの支援もあって日本各地と韓国で上映され、後年欧米諸国でも上映されたが、まだ無声映画なので弁士が必要であった。南山教会で上演された時には、知人のカメラマンが弁士となり、何処で入手したのか、戦国時代の武士の闘争場面では昔のチャンバラ映画のメロデーもカセットで聴かせてくれていた。

松岡名古屋教区長がまだ司教でなかったので、筆者と春日井直吉神父は、京都の古屋司教により59年1月4日に南山教会の聖堂で司祭に叙階されたが、これが聖十字架聖堂での最初の叙階式であった。同年3月に春日井神父が南山教会助任となり、筆者はローマに留学するまでの半年間、ピオ館に滞在したが、夏には多治見高校時代の同級生加藤迪春氏の車で、ナーベルフェルト主任神父と中学時代からの親友小林博英氏と共に岐阜の鶴飼い見物に行くなど、南山

教会についてはいろいろと思い出も多いが、ここでは割愛したい。

50年の月日

阿江 茂

1957年の秋に、私が留学から帰国した時に、南山教会の建設がどこまで進んでいたかは覚えていないが、すぐ木村太郎先生から話があった。募金に応じたことは覚えていない。

ただ2000年に発行した「小教区50年の歩み」を編集委員の一人としてお世話したので、調べたことは「歩み」を読み直して思い出している。着工式の57年4月8日は留学中であったが、完成後の松岡教区長による58年3月2日の最初のミサ、M・D・E・FURSTENBERG大司教の5月3日の献堂式のこと、全く私の記憶には残っていない。南山教会はカマボコ聖堂の時に、小教区聖堂として認められていたので、日本国内での募金は、小教区聖堂とし

て行われたが、外国では大学聖堂として行われた。事実聖堂は、学園敷地内に建てられたが、1969年に敷地とともに、神言会日本管区に移された。日本で募金の世話をなさった方々は、私の知る限り皆亡くなっている。今改めて50年の月日を実感している。

懐かしいあの時代

伊藤宗太郎

私にとって、カトリック南山教会で聖十字架大聖堂が完成し、献堂式が行われた昭和30年代は、若さあふれる青春時代であって、懐かしく思い出される。

南山教会では年々受洗者が増加し、昭和31年には信者総数が1000名を突破していた。当時の聖堂は、昭和23年頃南山学園が学園講堂の北側に建てたコンセット・ハットを使用していた。戦争中米国で生まれたコンセット・ハットは食べる蒲鉾の丸

い形に似ていたので、カマボコ聖堂と呼ばれていた。聖堂は畳敷きで、50名がやっと座れる広さであった。ギユウギユウに詰めれば100名ほどがミサにあずかれた。カバン、オーバー、マフラーなどを持ち込めば、混雑はさらに厳しかった。ある時、サイフの入った手提げ袋がミサ献金の袋と間違えられ、行方不明になって大騒ぎとなった。あまりの混みように、日曜日のミサ時間が朝7時、8時、9時半、11時、夕方六時の分散スケジュールとなった。

したがって、多くの人が集まるクリスマス深夜ミサや御復活祭のミサでは学園講堂やカテキスタ聖堂が使われた。だが、これらの場所も満杯となり、遂には、昭和31年のクリスマス深夜ミサには、学園講堂では座席整理券が発行される始末であった。信者の間で聖堂建設の声が次第に高まり、昭和29年に神言会総長と南山学園理事会に聖堂建設の要望書が提出された。昭和30年9月には南山

教会信者と学園教職員とで聖堂建設後援会が組織され、2年間で5100万円を目標に募金活動が開始された。南山教会では同年10月2日に南山高中校女子部元講堂でミサが捧げられ、その後信者総会が開かれて新聖堂建設募金趣意書が公表された。そして、教会内では聖堂建設委員会が設けられ、月2回常任委員会が開かれて募金事業が大々的に展開されはじめた。私はその時教会の青年会副会長で、この募金活動を積極的に支援した。

まず、同年5月21日(土)、22日(日)に学園講堂で映画鑑賞会が開催された。「私は告白する」という映画で、ハリウッド俳優モンゴメリー・クリフト演ずる神父が殺人の罪を告白され、苦悩する感動的な物語であった。「遥かなる星」も同時上映された。

婦人会主催のバザーが同年12月には南山高中校女子部元講堂であり、ついで昭和31年11月には女子部新築

校舎で行われた。売り場には手芸品、寄付品、雑貨、アメリカ衣料や靴、ビスケット、キャンデー、みつ豆などが並べられた。私は富くじ売りを担当し、賞品として寄付の家電品やおもちゃを飾り、1本10円で三角くじを販売した。空くじは赤、青の筆記用インクを景品に渡した。その時はまだボールペンが無かった。おもちの電気機関車を射止めようと、子どもたちがワイワイ群がってくじを買ってくれた。バザーの成績はかなり良かった。

昭和31年4月8日に宮城道雄さんのお琴の演奏会が学園講堂で開催された。入場券を240円で販売し、信者の方々にご協力を願った。演奏会当日には婦人会や青年会が接待やお手伝いに動員された。宮城道雄社中一門の方々にも応援していただいて、結果は好成績であった。会場では琴と洋楽が融和する新しい調べに酔いしれた。ただ、その後しばらくして、宮城道雄先生が夜行列車から

転落して、愛知県刈谷駅付近で亡くなられた。この悲報を聞き、信者の方々は大きなショックを受け、深くご冥福をお祈りした。

同年11月17日夜には、原智恵子さんのピアノ演奏会が学園講堂で開催された。それに先立ち、同日午後1時半にも高中学校女子部で彼女の小演奏会が開かれた。入場券は売れ行きが大変心配されたが、みなさんのご支援で盛況裡に演奏会は終了した。

聴衆は絶妙なピアノ・タッチを目の前にして感嘆した。その成功は建設委員会のメンバーの方々の強力なバックアップが大きかった。私は原女史の接待、送り迎え、警備を命ぜられ、最後は近鉄特急まで重い旅行カバンを持ってお見送りをした。

教会では募金事業が次々と開催されたが、信者さんの一般寄付がなかなか進まず、「なぜ出し惜しむか？」と隠れキリシタン研究で有名な南山大学田北耕也先生に叱られた。ともかく、新聖堂建設費一億円の大部分

は神言会の財政援助でまかなわれた。昭和33年2月に新聖堂建設の工事が完了し、3月2日には名古屋教区長 ペトロ松岡孫四郎師によって新聖堂の祝別式と最初のミサが捧げられた。献堂式は5月3日 聖十字架発見の祝日に行われ、駐日ローマ教皇庁公使マキシミアン・ド・フルステンベルグ大司教司式による荘厳ミサが捧げられた。

聖十字架聖堂は白亜の殿堂の如く、南山町の小高い丘に建てられた。白い円形の聖堂とその上に地上30メートルの長四角形のコンクリートの塔がそびえ、塔の上にはステンレス製の大十字架がすえられた。この十字架は朝日や夕日には燦然と黄金色にキラキラと輝いた。円形の聖堂は設計者のフロイラー師によると、聖杯の上に丸いホスチアを半分あらわしている聖画から着想したものである。極めて斬新な外観で、南山教会の信者の方々はもちろんのこと、周辺の名古屋市民も「あれっ」と驚いた。

聖堂建設募金原智恵子ピアノ演奏会での記念写真（昭和31年11月17日 南山学園講堂玄関ロビーにて）原智恵子、聖堂建設委員会、婦人会、青年会の役員メンバーたち、前列左から宇佐美繁太郎、一藤季雄、今川憲次夫人、安田貞治師、原智恵子、田北耕也夫人、元川房三、直井豊、後列左から伊藤宗太郎、中島邦、小林武昌、藤井一雄、寺田耕、石居岩雄。



当時は、塔の上の鐘が大きく鳴り響くと、遠くの港方面や庄内川向うの住民から「何の音か？」と、警察や新聞社に問い合わせが殺到したそうである。

私は南山教会の素晴らしい大聖堂を眺めながら、若かった青春時代に神様の王国をコツコツと建設した努力を誇りに感じている。



南山教会聖十字架聖堂

竣工時の思い出

岡崎 芳彦

50年前の現在の地は、緑豊かな雑木の小高い丘であった所に、当時白亜の殿堂に似た現代的で斬新なデザインの大建造物（聖堂）の勇姿の出現には信徒を始め南山大学教職員、大学生や中高生、教職員、そして近隣の人々の注目の的となり、また市電八事線の山中、杖中、半僧坊の地点からの教会の眺望は一躍名古屋の名物となったと覚えている。勿論、完成までには、神言会をはじめ南山学園関係者、信徒一同の献身的な貢献と、内外共に教会完成に協力的な関係者等による財政的支援と並みならぬ努力の結晶に深い感謝と神の大いなるお恵みに信徒一同の感激は、ひとしおであったと、つい昨日のように思い出されます。聖堂竣工間近の前年1957年（昭和32年）12月29日には聖堂に先がけ待望の信

者会館が完成、これには当時の主任司祭ナーベルフェル師、学園理事長ヘルマン・ベルテルスベック師の特別な計いにより工事関係者のご理解と努力により早期工事完了と会館を利用できる運びとなり、カマボコ聖堂（コンセット・ハットを改修1949年11月設置）での、小生共が多分最後の結婚式式場1958年（昭和33年1月）としてミサ後にはパーティー会場に新築完成の信者会館2F会館を、婦人会諸姉の多大なご協力により、手作りパーティーを盛大に無事開催させていただいたことに深く感謝しております。あれから早や50年を大過なくお恵みのうちに現在に至っております、聖堂の完成はその後2月末となり、1958年（昭和33年）3月2日、当時の松岡教区長による聖堂の祝別式と最初のミサが行われ、後5月3日には教皇庁公使マキルミアン・ド・フルステンベルグ大司教による聖別式と献堂式が盛大に行なわれた、また6月25

日、ドイツ聖アウグスチヌス大神学院寄贈の鐘の祝別と塔への設置、1961年（昭和36年）10月にはドイツ南部オーベルアンメルガウより聖母像が到着し、聖堂内関連設備等が着々と整備され今日に至っていることは教会の一層の発展と躍進を物語っております。

神の豊かな恵みと世の平和を祈りながら神に感謝しつつ、今後一層の発展を願って。

〈主な資料〉

1. 南山教会小教区50年の歩み
2000年5月発行
2. 南山中高等学校創立70周年記念写真集
P 60、70、74、75
2004年3月発行
3. 「神言会と聖霊会」
神言会創立100周年P 36
1975年11月発行
表紙カバー写真および
4. 南山大学50年史写真集P 67
1999年10月発行

加藤 迪春

今から50年前を顧みますと、カマボコの聖堂から本格的な大聖堂を建設するという大事業に信徒の間は熱気に溢れておりました。

当時教会の運営は主として榭先生ご夫妻をはじめ南山大学の今川先生岸田先生、工藤先生、田北先生、成澤先生、元川先生等の錚錚たる方々が先導されておりました。

その頃、私は未だ20歳代の若輩者で、しかも職場が新しい支店の開設準備で忙殺されていたために十分なお手伝いが出来ませぬ先生方の走り使いをする程度でありました。

それでも、募金趣意書の文案について先生方が一語一句を慎重に推敲されておられるご様子から学ぶ事が多々ありました。

昭和30年代の日本経済は、謂わば発展途上国でご寄付金を一括ご納付という方は極く少なく殆どの方が分

割納付でしたので個別カードを作つて毎週、毎月記入する事が私の役目でした。

また、募金の他に、バザーを催して収益を建設資金にといい企画から当時としては高嶺の花の電気製品などを賞品とする籤の発売を企画し警察署へ籤発行の可否を尋ねにも行きました。

こういう時代環境から教会の会計も余裕がなく、一仕事終えた後の休憩時の紅茶も1パックで2カップという質素さで、電力料金の支払が1月遅れた事さえありました。

その後、高度成長のお陰で暖衣飽食の日常になるにつれて信仰生活もより豊かになったかと自問するときグローバル化、市場原理優先主義の滔滔たる流れに押されて何時の間にか、金まみれになっていくような忸怩としております。

今年12月24日には、長崎で188殉教者列福式が行われます。

この事は、金よりも、物よりも、

身分よりも、命よりも、後生を大切にされた先人達の生き様を信徒の心に刻ませ、覚醒させる画期的な慶事と心得ております。

〔五十周年記念想い出集〕の発刊と殉教者の列福を併せて、次の50周年の礎に資するよう経済的には困窮をすることがあつても、凜とした質実な気風を培うよう毎週の出会いを大切にと存念しております。

「南山教会・聖堂祝別」

献堂五十周年記念に寄せて」

ヨハネ・フランシスコ

小林 武昌

南山教会の聖堂の祝別および献堂式は第三代の主任・ナーベルフェルト神父の任期中に挙行された。祝別式は昭和33年3月2日、松岡教区長の司式で厳粛に行われた。式後、教会の側面を背景に慶びの記念撮影が行われた。献堂式は2月のちの5月3日、教皇庁駐日公使フルステンベ

ルグ大司教の来臨を仰ぎ、晴れやかに、かつ荘厳に執り行なわれた。参加者の喜びと感激はそれぞれの顔に満ち溢れていた。若年の私には初の体験であり身の引締まる緊張感と感激でいっぱいであった。献堂式後に、参加者一同を交えての祝賀の行事が行なわれた記憶はないが当時は収容力に富む信者会館もなく止むを得なかつたことと思われる。また教会建設については、新聖堂建設後援会が設けられ500万円を目標に募金を開始したとの記録があるが、信徒各位がどのような形で協力を要請されたのか？教会維持費に上乘せするよるな形で応募したのか？50年を経た現在私の記憶は定かではない。さて、これを機会に教会の初代主任司祭のシユタインホフ神父について触れてみたい。神父は昭和25年南山小教区が独立し神言会に司牧が委ねられた折、南山教会の主任司祭に任命された。教会といつても大学運動場の片隅にあつたカマボコ型の小さな仮聖



南山教会祝別式 1958年3月2日

堂であった。

熱心に布教活動をされたが就任1年にして病に倒れ帰独されることになった。

心を教会に残し名古屋を離れることは辛いことであつたに違いない。神父を霊父と仰ぐ私はいつか独逸に神父を訪ね、教会が内実ともに立派に建立された様子や信徒や学園の現状を報告しお慰めしたいものだと思つていた。昭和61年の夏、私はロンドンに在住していた娘夫妻を訪ねた折を利用して念願を果すことができた。ロンドンより当時の西独の首都ボンに飛び、市の郊外にあるサンクトアウガスチン修道院を訪ねた。受付に来意を告げる。ホテルより電話連絡してあつたので、待ちかねたように神父の懐かしい顔が喜びに輝きなが

ら近づいて来る。肩の抱き合い、固

い握手と挨拶に30数年の隔たりは一瞬のうちに吹き飛んでしまう。やがて神父の個室に案内される。一別以来の時空の隔たりを一気に埋め合わせるかのように神父の質問に答えながら教会のこと、信者のこと、学園のことなどを数時間にわたり話し続けた。神父は立派に建立された南山教会のことを殊の外の喜びようで、教会と信徒の皆様にかかるの祝意と祝別を送る旨を伝えてくれるよう託された。話に一句切がついた処で、修道院附属の墓地に眠るピンセラワト校長の墓参を希望し神父に案内して貰い目的を果す。墓碑と私を記念撮影して頂き、院に戻つて茶菓の馳走になる。去り難い思いを残し再会を約しながら修道院を辞す。別れに際し神父は是非にと言つて愛用の音楽聴取用のヘッドフォーンを記念に下さつた。ボンに戻つた私はこの好機にとオランダのシユタイルにある聖ミカエル修道院に、神言会創立



カマボコ型仮聖堂での洗礼式記念

者・アーノルド・ヤンセン神父の墓参をすることにした。ボンからは車で1時間程、フエンロー駅で下車し修道院に到着、来意を告げる。夏の休暇で院長は不在とのこと、オランダ人のブラザーがよくも遠路はるばるお訪ね下さつたと言いつつ2時間にもわたり院内を隅々まで案内してくれた。院内には修道士が300名以上常任、大きな印刷工場もあり隔週に宗教関係の雑誌をヨーロッパ各地に頒布しているとのことでありその生き生きとした活動力に感銘を受

ける。最後に来院の目的であるヤンセン神父の墓に案内して貰い、万感の思いをこめて、深い尊敬と感謝の祈りを捧げた。神言会の精神的発生の地に直接触れ得た感動が今も忘れられない。シユタインホフ神父は翌年帰天された。色々な念願を叶えて下さった主の導きに心から感謝する次第である。



ヨハネス・ボンセエツト神父の墓参

お告げの鐘

柴山 朋子

聖堂のできた頃のこと。50年も前の事ですので記憶がモローとしています。一つ憶えていることは鐘樓のテッペンまで登ったことです、鐘は外国から送られてきて、パウルト名付けられました。足場の組まれた鐘樓に登り、街の方を眺めた時の感激は素敵でした。ビル等何も建ってなくて松坂屋が一きわ大きく高くみえました。朝、昼、夕と一日に3回なるお告げの鐘はその音を聞きつつ唱えるお告げの祈りとともに若い頃のそして信仰あつかった頃の想い出です。その鐘がある時から突然ならなくなりましたそれは学校のお昼の授業が12時半に終るので、その30分前12時になるのは、授業が中断されるので、そのため中止になったと聞きました、勿論ご近所から、病人がびつくりするとか、赤ちゃんが目覚めるとかの苦情も入ったとかという

話です。

でも、お告げがなくなつたのも非常に淋しいことでした。

想い出すことは一杯ありますが、まとめる事ができません。

50年の間に教会は、公会議もあり、凄く変りました、私は変つた教会の端っポでついてゆくだけで一杯今の私があります。

最後まで神様の側におらせて頂くように希っております。

新しい聖堂と日曜学校

伴 紀子

古いアルバムを整理していると、学生時代に南山教会の日曜学校を手伝っていたころの写真が3枚出てきました。1枚は神父様を囲んで8名

の先生と38名の生徒たちが教会の入り口の前で真面目な顔つきで写っている写真です。神父様から難しいお話しを聞いた後だったのでしよう。やはり、そうでした。教会の中でき

ちゃんと座ってお話しを聞いている写真も出てきました。それから、教会

の入り口の横の壁の前で撮つた写真もありました。これは、先生も生徒もみんなが笑っています。本当にうれしかったのです。新しく丘の上に建つた円形の白い教会は、私たちを明るくしてくれました。日曜学校の先生も生徒も明るくなりました。

それまでは、南山大学の運動場のそばに建っていたかまぼこ型の小さいお御堂を使っていましたから。そこは教会というよりチャペルといった感じで、小さいオルガンが1台ありましたが、新しい教会では、オルガンの音色が祭壇に向つて響き渡りました。みんなで歌つた聖歌は「マリアさま」でした。

マリアさま

お手々あわせて いつの日も

わたしのために 祈りくださる

起きるから休むときまで

父母のみこころに添い

よい児であれと



目がさめてイエズスマリアヨ
ゼフさま守りたまえと祈るよう
にと

何ごともすなおに受けてまめやか
に神のこころに添いまつれよと

この聖歌を口ずさむと、毎日曜日、
先生と生徒たちが丘の上に建った新
しい教会に下から駆け上がって、わ
れ先聖堂の中に入って行って、みん
なで一緒に祈った声が聞こえてきま
す。ステンドグラスもない、コンク
リート打ちっぱなしの建物は中がひ
んやりとしていました。

3枚の写真が今から50年前に新し
い南山教会が祝別された頃の日曜学
校を思い出させてくれました。

思いこくまめか

水野 悦子

今年5月3日に、大聖堂祝別50周
年を迎えるとお知らせに、只々年
月の早さに驚いております。主人と
私は、昭和24年のクリスマスに洗礼

のお恵みをいただきました。南山の
サウエルボン神父様は、視覚障害者
が集まり易いよう雪見町に、分教会
として民家を借りられ、布教を始め
られたのです。

グドルフ神父様、ジニア神父様、
ポルド神父様が交代でミサを捧げに
来てくださいました。南山高校の小
林先生、横尾先生、中島邦先生名経
専（後の名大経済学部）の学生さん、
盲学校の片岡先生、そして松井、水
野など若さ溢れる教会でした、近所
には牧場が多く毎朝新鮮な牛乳を分
けていただき、神父様にチーズの作
り方を習いミサの後でいただきました
が、生まれて始めての食感にみな
戸惑っていたことも懐しく、思い出
します。

その頃南山では、安田神父様を中
心に、新聖堂建設の機運が高まり、
募金運動も始まっています

小林先生の奥様のお骨折りで、当
時日本の箏曲の第一人者である宮城
道雄先生の演奏会が学園の講堂で行

われ、受付の手伝いをしたことを覚えて
います。又サウエルボン神父様
のお供をして、五軒家町の家々を訪
問しました。その折、神父様にいろ
いろ教えられました。その一つに

外国では寄付を集めに行く時は、借
りでも一番良い車に乗って、一番
よい服装をして行きますと教えられ
後に障害者の会などの寄付集めに大
いに役に立ちました。訪問の記事は
ドイツで新聞に大きく取扱われ、多
くの寄付をいただいたと伺いました。
主人も忙しい仕事の合間を縫って、

学園の記録写真を写しておりました、
今は学園の資料室に収められ教会関
係は、マリア館の倉庫内の資料棚に
保管されています。お役に立てば幸
です。

新聖堂は、着々と建設が進み、日
曜毎に赤土の丘に鉄骨が組まれてゆ
くのは、とても嬉しいことでした。

ピオ十一世館、畳のカマボコ聖堂も
それなりに風情がありました。大聖
堂の建設に携わった方々の多くは天

国に召され、私自身記憶にありませ
ん。

聖堂が立派に祝別され、漸く教会
らしくなってきました。又昭和40年
3月には信者会館も出来上り、私も
その頃から先輩の婦人方に教えられ
てお手伝いするようになりました。

当時教会は貧しく水道、電気代も
滞りがちで、皆で各部屋の水道の栓
をしめ、無駄な電気を消すなど、極
力節約に務めました。

聖堂のお掃除は、当時清掃会社に



雪見町分教会

依頼していましたが、その費用は教
会の会計を圧迫してしましたので婦
人の力でお手伝いしましょうと言う

ことになり、10名1組で10班、2ヶ
月に1回と決め、お勤めの方も、休
暇を取って協力して下さいました。
それが現在のマリア会の始まりです。

然し今高齢化が進み、又勤めの方
が増え、思うように集まらなくなっ
たと聞き、淋しく思っています。

教会で一番始めに叙階式が行われ
たのは、南山高校出身(レデンプ
トール会)の近藤雅宏神父様でした。
祝賀会のお料理は婦人会が担当する
こととなり、お料理を教えていらっ
しゃった米田先生に指導を受けなが
ら3日掛りで作りました。当時は材
料も乏しく、冷蔵庫も小さいのが一
つ。いろいろ智慧をしぼって作った
ことが懐かしく思い出されます。

昭和50年平針教会が建設されまし
た。その資金集めに紳さんの発案で、
毎日曜日ミサ後、聖堂前で紅茶パー
ティを開きました。一杯100円の



ピオ11世館

紅茶にクッキー。ピオ館の神父様
方もお集りになり、本当に楽しい一
時でした。紅茶に入るブランドデーも
大人気、提供された御主人方は、日
曜如に棚から消えてゆくブランドデー
に苦笑いをしていらつしゃったこと
でしょう、楽しい募金集めました。

クリスマスイヴには、チャプリーツ
キ神父様の指導で南山大の学生さん
が、講堂の屋上から奏する「静けき
真夜中、貧し馬屋」のトランペット
の音色が静かな夜空に響きました。

その音色に誘われるように、御近所の方も一緒に教会へ集って、深夜のラテン語ミサにあずかりました。

午前2時近く車1台通らない広路通りを、御器所の方へ帰る人達が、グロリアを唱いながら家路へ急いだことも、よい思い出となって私の胸に刻みつけられています。騒音防止令も、ひたたくりもない平和な日本でした。

先日多治見の墓地へ行ってまいりました。南山の礎を築いて下さいました多くの神父様が眠っていらっしゃいます。どうぞこれからも、この南山教会をお守り下さい。

少し呆け 少し善人となりゆきて
若き人らと 静に祈りぬ



南山教会 25 周年記念



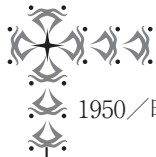
聖十字架聖堂遠景



南山教会 25 周年記念



教会 30 周年記念ルルド除幕



南山教会聖歌隊の歩み



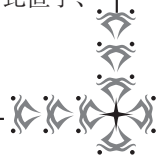
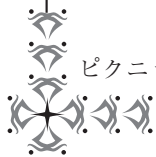
1950/昭25	南山教会設立 大祝日には、当時の南山大学講堂でチャプリッキ師指揮の臨時編成の聖歌隊が奉仕
1960年代の前半	公会議で典礼の自国語化が決定 ウーマンス師の指導で当教会独特の「主日のミサ典礼書」が完成 その後全国の動きとして、「典礼聖歌集」が分冊で続々と発行
1965/40. 5. 27	(主の昇天の祝日) 夕方のミサで現在の形の聖歌隊 初登場 (新しい聖歌の吸収と普及のため) 「指揮者：由比」
1970年頃	チャプリッキ師によるオルガン・メデイテーション (旧オルガンによる演奏会の始まり)
1971~72年頃	琴によるミサ 数回
1974/49. 12	名鉄メルサでクリスマス・キャロル
1975/春	教会の銀祝の祝賀会で、聖歌隊がミュージカル「三匹の子豚」を公演
1976/51. 7	当教会専用の「歌唱ミサ典礼」を発行
1977~78年頃	三菱重工、名古屋工業大学、名城大学、愛知大学、名古屋文化学園女子短期大学などの応援しきり
1977/52. 44. 17	中央教会での宗教音楽発表会に参加
1978/53. 3. 26	アシジ合唱団と交歓
1979/54. 3	(由比、会社都合により指揮者を辞任)
1980/55. 11. 16	第1回名古屋教区典礼聖歌演奏会 (五反城)
1981/56. 11. 15	第2回名古屋教区典礼聖歌演奏会 (城北橋)
1982/57. 11. 14	第3回名古屋教区典礼聖歌演奏会 (南山)
1983/58. 11. 13	第4回名古屋教区典礼聖歌演奏会 (南山)
1986/61. 10	聖霊学園の山の家 (茶臼山) で合宿
1987/62. 10	(由比、指揮者に復帰)
1988/63. 3. 5	浜名湖 (安田師) で合宿
1989/平 1. 4. 15	高田三郎氏による典礼聖歌講習会
9. 17	カトリック・スカウト・サンデー
9. 30	多治見ログハウスで合宿
1990/ 2. 6. 30	聖霊学園 (瀬戸) で合宿
7. 15	聖歌隊 25 周年記念ミサ・演奏会
7. 16	引退、以降の詳細は不明

[参考事項]

歴代指揮者(50音順)：	井爪謙治、西脇、橋倉溢子、由比健郎
歴代先唱者(50音順)：	会沢俊昭、家田足穂、小林初穂、北条顕示、八巻、由比健郎
歴代オルガニスト(50音順)：	泉真澄、井爪光子、伊藤奈保里、伊藤雅子、大村英里、岸田準一、小出尚子、田村慶子、寺田耕、鳥居由紀枝、中山カナ子、長谷川尚之、深田逸子、村山政子、村山洋一、本告京子、由比直子、吉田徳子、脇山陽子

ピクニック、ドライブなどは省略

由比健郎氏による





1957年11月17日 建設途中の大聖堂



1957年7月1日 建設途中の大聖堂



十字架の祝別



鐘の祝別



中央通路がなかったころの大聖堂



1960年12月24日 クリスマス



1984年11月24日 マザーテレサ来訪



1975年9月14日 聖十字架除幕

南山句会

平成二十年五月七日

桜餅葉のままか否かとやかましき

光子

疊とはよきものなりき夏隣り

好子

ひたすらに祈り祈りし昇天祭

sr.ミカエラ

ディズニ-の夢は世界に子供の日

洋子

憧れの名画に遇へり春の旅

せつ子

たちまちに葉桜ばかり五軒家町

ひろし

たんぼぼに気付き片足そつとあげ

とく子

余花の雨被爆聖母の頬ただれ

佐知子

せせらぎの調べ優しく山笑ふ

瑞子

毎月第一水曜日午後一時半

マリア館二階集会室

信者の消息

結婚 ♡お幸せに♡

5月10日

HORSTEIN DANIEL JACQUES ANTOINE ♡太田 珠美

6月2日

フランシスコ・ザベリオ 加藤 帙夫 (81歳)

5月24日

ペトロ岡勝弘♡大波奈津子

転入 ようこそ

パウロ

山川 浩一 (北白川)

ミカエル

入門 健一 (五反城)

受洗 おめでとうございます

アンナ

岩本 久子

マリア・カタリナ

加藤 優唯

AMERIE YUKIE WAGNER

転出 いつまでもお元気で

セシリア

渡邊 明子 (関口)

アシジのフランシスコ

渡邊 大祐 (関口)

クララ

渡邊 あや (関口)

帰天 ご冥福をお祈りいたします

4月30日

アウグスチヌス

宮内 璋 (86歳)

アシジのフランシスカ

伴 美貴子 (茅ヶ崎)

2008年6月・7月行事予定

	教会典礼	教会行事	各会活動	教区行事・その他
6月	24(火) 洗者聖ヨハネの誕生 29(日) 聖ペトロ・パウロ使徒	29(日) 日英合同ミサ (9:30)	1(日) 運営委員会 6(金) マリア会例会(懇談会) 11(水) 子供部屋 (14:30) (日) 典礼委員会 28(土) 要約筆記付きミサ 29(日) 信者全体集会	26(木) 司祭評議会 29(日) 聖ペトロ使徒座への献金
7月		13(日) 子供の初聖体 (教会学校パーティー)	4(金) マリア会例会(懇談会) 6(日) 運営委員会 9(水) 子供部屋 (14:30) 20(日) 教会学校終業式 (日) 典礼委員会 26(土) 要約筆記付きミサ	6(日) 司祭叙階・金銀祝 17(木) 司祭協議会 20(日) 障害者の集い